

国連防災世界会議パブリックフォーラム「災害ロボットの社会実装」を開催しました (2015/3/14, 16)

テーマ：災害ロボット、災害予防、緊急対応、復旧
場所：東京エレクトロンホール宮城

国連防災世界会議パブリックフォーラム「災害ロボットの社会実装」を、IEEE Robotics and Automation Society, 国際レスキューシステム研究機構, COCN 災害ロボットプロジェクト, 内閣府 ImPACT プロジェクト, 日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門防災ロボット研究会, との共同主催で, 3月14日および16日の2日間にわたって開催いたしました。その過程でまとめられたロボット分野のリスク軽減のためのボランタリーコミットメントは, 3月15日の本体会議ワーキングセッションにてアナウンスされました。

3月14日のフォーラムは、「災害ロボットの社会実装：現状、ギャップ、将来に向けてのアクションプラン」をテーマに開催されました。6名の世界的に著名な関係者が、これまでの災害ロボットの適用と実績, 米国・EU・日本の現状, ロボット適用における現場とのギャップ, IEEE の人道技術に関する試みについて講演を行い, 将来の災害ロボットの適用に向けて, 下記のボランタリーコミットメントを採択いたしました。

「ロボティクスとICTの急速な発展に同期して, それらを国の災害マネジメント計画と制度化に活用することを加速するため, すべての関係者からなる国際委員会を設立する。」

このボランタリーコミットメントは, 3月15日に開かれたワーキングセッション「リスク低減のための地球観測と高度技術」において宣言され, 仙台行動枠組みの付帯文書の中に, 実施項目の一つとして位置付けられました。

3月16日のフォーラムは、「災害ロボットの社会実装：これまでの実績と未来へ向けてのチャレンジ」をテーマに開催されました。6名の日本の企業・大学の方々から, 福島第一原子力発電所事故に対するロボットの緊急対応, 同廃炉のためのロボットの適用と研究開発, 原子力緊急事態支援センターの設立と活動, 無人化施工システムの実績と将来, 土砂災害等への飛行ロボットの適用, について紹介をいただきました。

災害の予防・緊急対応・復旧において, ロボットは今後の重要技術のひとつであると考えられており, 国連防災世界会議においてその社会実装に向けた取り組みの重要性を再認識すると共に, 具体的なアクションプランを検討するための国際委員会の設立宣言によりそれを加速する端緒を切ったことは, 災害リスクを軽減し, 社会の災害に対するレジリエンスを世界規模で高めていくために, 重要な一歩であったと位置付けられます。

本フォーラム開催にあたり, IRIDeS 関係者をはじめ多数の方々にお世話になりました。深く御礼を申し上げます。



写真1：3月14日の招待講演者



写真2：3月16日の招待講演者